

2023 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	近藤 伸介
研究テーマ	ショーペンハウアーと唯識が語る解脱と無
研究概要	ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』と唯識の代表的な論書であるアサンガの『撰大乘論』を主要テキストとし、両著作の中で語られる「解脱」と「無」という概念について比較研究を行い、両思想の共通点と相違点を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>2023 年度の研究テーマは 2022 年度に引き続いて「ショーペンハウアーと唯識が語る解脱と無」で、ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界 <i>Die Welt als Wille und Vorstellung</i>』とアサンガ（無著、無着）の『撰大乘論 <i>Mahāyāna-samgraha</i>』を主要テキストとし、両者が語る解脱と無という概念について比較検討した。ショーペンハウアーと唯識はともに、現象世界がそれぞれ意志とアーラヤ識という存在基盤から生じる表象であると説き、また世界は苦しみに満ちていると述べている。さらに、両者はともに、苦しみを克服する解脱がこれら存在基盤の否定によってなされると述べており、両者が語る解脱の過程及び解脱後の境地には高い類似性が見られる。本研究の成果となる論文では、根拠となるテキストの引用を頻繁に示しながら両者の共通点を明らかにし、同時に両者の相違点もまた明らかにした。この論文は『佛教大学総合研究所紀要』第 31 号に掲載された。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>[論文等]</p> <p>単「ショーペンハウアーと唯識が語る解脱と無」『佛教大学総合研究所紀要』第 31 号、pp. 15～30、佛教大学総合研究所（2024 年 3 月、査読有）</p> <p>[発表]</p> <p>単「仏教の哲学「唯識」が描く世界。私たちは共同幻想に生きている。近藤伸介氏インタビュー」Less is More. by info Mart Corporation（ネット公開 2023 年 7 月 19 日）</p>
3. 今後の課題	<p>2024 年度は「知性と直観、分別知と無分別智～ベルクソンと唯識が語る二つの認識作用～」というテーマで唯識とベルクソンの比較研究を行う。ベルクソンは、我々の有する認識能力として知性 <i>intelligence</i> と直観 <i>intuition</i> の二つを語っている。このうち、知性とは、認識対象を固定化し、分割し、再構成して認識する能力である。一方、直観とは、認識対象の中に身を置く、あるいは対象そのものに浸透することで、直接それを把握する。この相反する二つの認識能力のうち、ベルクソンが哲学の方法として重視するのが直観である。また、『撰大乘論』は、分別知と無分別智という二種類の認識能力を説いている。このうち、分別知とは認識対象を分類し、概念化して（あるいは名前を付けて）把握する能力であり、我々は通常、分別知によって世界を認識しているが、それは誤った認識であるという。世界の真の在り方を把握し、我々を解脱に導くのは無分別智であり、それは対象を分類することも概念化することもなく、ただありのままに見る能力である。こうしたベルクソンが語る知性と直観、唯識が語る分別知と無分別智には高い共通性が見出せるため、比較研究によって両者の共通点と相違点を明かにしたい。</p>